第 **28** 回

国際浮機等金

秋 季 大 会

2023年11月25日(土)

会場

神奈川大学みなとみらいキャンパス 米田吉盛記念ホール(横浜市西区みなとみらい 4-5-3) および Zoomによるオンライン

主催/国際浮世絵学会



第28回国際浮世絵学会秋季大会によせて

国際浮世絵学会会長·大和文華館 **浅野 秀剛** President of IUS., Museum Yamato Bunkakan Shūgō ASANO



ここ数年、夏がより暑くなっていましたが、今年は特に異常で、日中はとてもウロウロできず、部屋に籠っていました。部屋では本を読む、本を見るということもしますが、残念ながらパソコンを開く時間が増えたのは間違いありません。日頃、電車に乗るとスマホいじり人口が圧倒的で、個人的には少し苦々しく思っていましたが、お前はどうなの?と聞き返されたような気がして、少々うなだれています。

21世紀になり、ウェブ上のデータベースが充実し、私の、浮世絵に関する調査・検索の過半がパソコンを操作してのものとなりました。要は、原稿を書くとき、本や雑誌だけでなく、ウェブ上の調査で最低限のレベルを確認するということです。より情報を集めやすくなったので、それだけレベルが高くなったことを意味し、喜ばしい反面、なかなかしんどい世の中になったなあ、というのが正直な感想です。

今年の秋季大会は、昨年同様、1日だけのハイフレックス開催となります。講演は、チューリッヒ大学教授のハンス・ビャーネ・トムセン氏による「"上方すりもの"について考える」です。 浮世絵研究で取り上げられる摺物は、江戸の摺物が多いのですが、伝存する量としては上方のものが多いのではと思っているので、どのような話が聞けるのか今から楽しみです。 シンポジウムは「浮世絵と社会情勢」と題して、寛政の改革や天保の改革、そして幕末期の社会と浮世絵出版の関係を考えるとうかがっています。

今回は、横浜みなとみらいの神奈川大学で行われる初めての大会となります。大会の開催をお引き受け下さった神奈川大学、準備の主体となった国際委員会をはじめ、ご尽力下さったすべての方々に感謝申し上げ、ご挨拶といたします。

第28回国際浮世絵学会秋季大会によせて

国際浮世絵学会理事長・国立歴史民俗博物館 Chair of the Board of IUS., National Museum of Japanese History 大久保 純一 Jun'ichi ŌKUBO



今回の秋季大会は、はじめての会場となります。しかも真新しいすばらしいキャンパスです。 シンポジウムのテーマは「浮世絵と社会情勢」。パネリストのおひとりが話される横浜絵がま さに生み出されたまさにその場所、かつ国際浮世絵学会にふさわしく、グローバル系学部が集 まるキャンパスで大会を開催できるというのもありがたいことです。会場の確保にお骨折りい ただいた藤澤茜国際委員長、大会開催に向けてご尽力いただいた国際委員各位および事務局の みなさまに心から御礼申し上げます。

理事長として私はすでに二期目を迎えていますが、これまではずっと新型コロナの流行に振り回されてまいりました(しかも、第九波到来というように、いまだ終息の気配を見せません)。 それでもリモート開催を含めなんとか学会活動を維持できて来たのは、会員のみなさまのご協力があってのことです。とくにここ数年は若い委員の皆さんの貢献も目立ってきたような気がします。大きな災禍のあとでは社会が一気に進歩するというようなことをどこかで耳にした記憶がありますが、本学会もそうであればうれしく思います。

ところで、大会テーマに話をもどしてみると、もし浮世絵というものが現代にまで存続しているとしたら、このコロナ騒動の数年はどのように描かれていたでしょう。世界中が巻き込まれた災禍であるので、その出版点数も半端なものではなかったでしょう。疱瘡絵や麻疹絵のように、病気をシンボライズするようなモティーフはいったい何になっていたのでしょう。あばただらけの疱瘡神さながら、とげとげだらけで丸い顔をしたコロナ神?、為朝や鐘馗さながら病魔をこらしめるのは、ファイザーやモデルナのワクチンを擬人化したものであるはず、などと空想するのは、いささか陳腐に過ぎるでしょうか。

貧困な私の想像力とはちがって、本大会が創造力に満ちた充実したものとなりますように。

国際浮世絵学会

INTERNATIONAL UKIYO-E SOCIETY

第28回 国際浮世絵学会 秋季大会

日時:2023年11月25日(土)

会場:神奈川大学みなとみらいキャンパス 1階 米田吉盛記念ホール (横浜市西区みなとみらい4-5-3)

およびZoomによるオンライン

※大会の参加方法や参加費については、本冊子の【秋季大会 参加方法】をご覧ください。

タイムテーブル

総合司会:藤澤 茜(国際委員会委員長・神奈川大学)

10:30 開会の辞 浅野 秀剛 (国際浮世絵学会会長・大和文華館)

10:40 理事長挨拶 大久保 純一(国際浮世絵学会理事長·国立歴史民俗博物館)

10:45~11:25 研究発表 司会:長井 裕子(那珂川町生涯学習課文化財係)

「川俣絹布整練株式会社と錦絵カレンダー ―明治43年小林清親版を中心に―」

山口 希 (神奈川県立歴史博物館/國學院大學)

11:25~12:05 研究発表

「名主双印再考」

加藤 次直 (東海大学)

12:05 休憩

13:15 シンポジウム「浮世絵と社会情勢」 司会:渡邉 晃(国際委員会副委員長·太田記念美術館)

発表:佐藤悟(実践女子大学)「浮世絵にみる出版規制の諸相」

藤澤 茜(神奈川大学)「天保の改革後の浮世絵出版」

桑山 童奈 (神奈川県立歴史博物館) 「横浜開港と浮世絵」

15:15 休憩

15:30~16:10 研究発表

司会:染谷 美穂 (千葉市美術館)

「三代歌川広重の肉筆浮世絵画帖について 一初代・二代広重の作品との比較を中心に一」

テリン・フレイヤ(ルーヴェン大学)※オンライン発表

16:10~16:50 研究発表

「北斎は戯作者兼絵師?

──文芸をめぐる社会的文脈の中で確立された視覚言語の、絵手本教育への応用」

ステファニー・サンチ (チューリッヒ大学) ※オンライン発表

17:00~ 特別講演

司会:小林 ふみ子 (法政大学)

「"上方すりもの"について考える」

ハンス・ビャーネ・トムセン (チューリッヒ大学)

18:00 閉会の辞 藤澤 茜

表紙画像 (すべて太田記念美術館所蔵) 喜多川歌麿「冨本豊ひな」 三代歌川豊国/歌川広重「東源氏 雪の庭」 歌川貞秀「神奈川横浜新湊港崎町遊廊花盛之図真景」

International Ukiyo-e Society 28th Fall Conference

Saturday, November 25, 2023, at Yoneda Yoshimori Memorial Hall, Minato Mirai Campus, Kanagawa University (4-5-3 Minatomirai, Nishi-ku, Yokohama-shi)
HyFlex

General Chair: Akane FUJISAWA (Chair of the International Committee, Kanagawa University)

10:30 Opening Addresses

Shūgō ASANO (President of IUS., Museum Yamato Bunkakan)

Jun'ichi ŌKUBO (Chair of the Board of IUS., National Museum of Japanese History)

Presentations Moderator: Hiroko NAGAI

(Nakagawa-machi Cultural Assets Section, Lifelong Learning Division)

10:45 ~ 11:25

Nozomi YAMAGUCHI

(Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History/ Kokugakuin University)

"Kawamata Silk Refining Co., Ltd. and Their Nishiki-e Calendars: Focusing on the Kiyochika Kobayashi Edition of 1908"

11:25 ~ 12:05

Tsugunao KATŌ (Tokai University)

"Re-examination of the Chronology of Ukiyo-e Prints in Edo by Analyzing the Combination of the Two Seals of the Town-Headmen"

12:05 Lunch Break

13:15 Symposium "Social Conditions and Their Impact on Ukiyo-e"

Coordinator: Akira WATANABE

(Vice Chair of the International Committee, Ota Memorial Museum of Art)

Presenter: Satoru SATŌ (Jissen Women's University)

Akane FUJISAWA (Kanagawa University)

Dona KUWAYAMA (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)

15:15 Break

Presentations Moderator: Miho SOMEYA (Chiba City Museum of Art)

15:30 ~ 16:10

Freya TERRYN (University of Leuven) *online

"Ukiyo-e Painting Albums by Utagawa Hiroshige II: Comparison with Works of Hiroshige I and Hiroshige II"

16:10 ~ 16:50

Stephanie SANTSCHI (University of Zurich) *online

"Hokusai as an Author-illustrator? Application of the Visual Language Established Among Hokusai's Poetic Social Context as a Didactic Tool"

17:00 ~ Special Lecture Moderator: Fumiko KOBAYASHI (Hosei University)

Hans Bjarne THOMSEN (University of Zurich)

"Thoughts on Viewing Kamigata Surimono"

18:00 Closing Remarks

Akane FUJISAWA

第28回 国際浮世絵学会 秋季大会 参加方法

第28回秋季大会は、神奈川大学みなとみらいキャンパスで開催をいたします。あわせてZoomを使ったオンラインでも配信いたします。

みなとみらいキャンパスへは一般の方も参加が可能ですが、オンラインでの参加は国際浮世絵学会会員限定とさせていただきます。パソコンやスマートフォン等のインターネット環境をあらかじめご準備ください。

■会場参加方法

当日は本冊子と会員証をご持参ください。マスクのご着用は任意です。また、体調のすぐれない方のご参加はご遠慮ください。

当日資料代は会員無料、一般1000円、学生500円です。

■会場案内

神奈川大学みなとみらいキャンパス 1階米田吉盛記念ホール

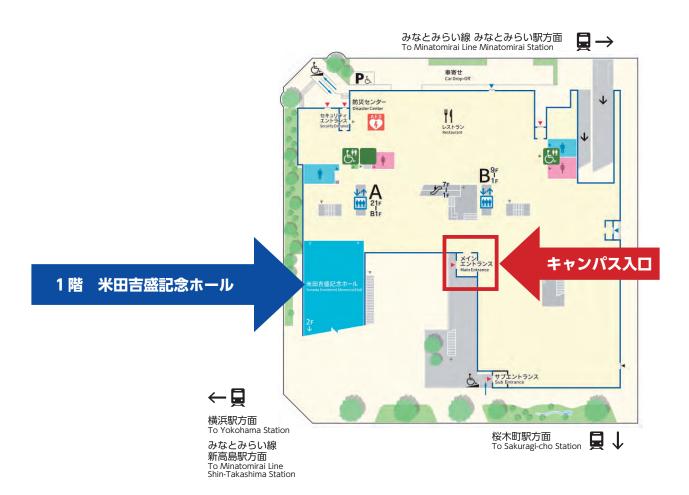
- みなとみらい線「みなとみらい駅」下車徒歩約6分
- みなとみらい線「新高島駅」下車徒歩約4分
- JR·東急東横線·京浜急行·相鉄本線·横浜市営地下鉄「横浜駅」下車徒歩約11分
- IR · 横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車徒歩約12分



■会場での飲食について

会場となる米田吉盛記念ホールには、フタ付きの飲み物のみ持込み可能です。

ホール内でのお食事は不可となっているため、キャンパス1階のレストランか近隣の飲食店をご利用ください。



■オンライン参加について

事前申込みは不要です。当日、下記のミーティングID、パスコードを入力しご参加ください。メールアドレスを登録されている会員には、事前にURLを送信しますので直接アクセスください。

なお、オンライン参加の場合、発表資料は当日、Zoomのチャット欄での配信となります。メールでの事前送付はありませんのでご注意ください。

■オンライン参加の手順

- ・Zoomを起動し「ミーティングに参加」をクリック。お名前はフルネームで表記してください。
- ・ミーティングIDに下記の数字を入れ、「参加」をクリック。

ミーティングID: **834 5090 5013**

・パスコードに下記の数字を入れてください。

パスコード:636282

・11月25日(土)10:20よりZoomにアクセスが可能です。

注意)オンラインでの参加は会員限定です。上記のID、パスコードは会員以外には決してお知らせしないようお願いします。

川俣絹布整練株式会社と錦絵カレンダー

— 明治 43 年小林清親版を中心に —

Kawamata Silk Refining Co., Ltd. and Their Nishiki-e Calendars: Focusing on the Kiyochika Kobayashi Edition of 1908

神奈川県立歴史博物館/國學院大學

山口 希

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History/ Kokugakuin University

Nozomi YAMAGUCHI

安政6 (1859) 年6月2日に開港して以来、日本有数の貿易都市として栄えた横浜は、明治30年以降になると絹織物の一種である羽二重の輸出も盛んになった。羽二重を扱う代表的な商店の一つである「川俣絹布整練株式会社」は、明治42 (1909) 年から4年間、海外の顧客向けの附録として「錦絵カレンダー」を制作していたことで知られる。この錦絵カレンダーは、先行研究では版元秋山武右衛門が過去に出版した錦絵の版木を再利用して制作されたものと語られてきたが、現在存在が明らかになっている関連作品同士の比較検討や、カレンダーを制作した版元についての詳細な研究は未だ行われていない。

今発表では、これら4年間の間に制作されたカレンダーのうち、神奈川県立歴史博物館が所蔵する明治43(1910)年小林清親版の錦絵カレンダー1月から12月までの全12点を中心に、以下の内容について考察を行う。

- ①カレンダーの原画に当たる、小林清親が描いた明治29(1896)年出版の揃物「花模様」との図の比較。
- ②同明治43年版カレンダーとして存在が確認されている、楊洲周延版と喜多川歌麿版との比較検討。
- ③版元秋山武右衛門との関係性について。

また、川俣絹布整練株式会社が当時どのような戦略で錦絵カレンダーを活用した商業戦略を計画したのかについても、同社の輸出産業の変遷を踏まえ考察し、本作品が横浜の輸出産業の歴史と明治末期の木版印刷の需要および輸出産業とどのように関係していたかについて検討を行う。

名主双印再考

Re-examination of the Chronology of Ukiyo-e Prints in Edo by Analyzing the Combination of the Two Seals of the Town-Headmen

> 東海大学 **加藤 次直** Tokai University **Tsugunao KATŌ**

「改印一覧」(『浮世絵大事典』所収、2008年)は、浮世絵の制作年代推定の根本資料となっている。特に、弘化三年から嘉永五年にかけての、名主印が二つある、名主双印時代の改印の年月が特定され、一覧できるようになったことの恩恵は大きい。例えば、役者絵の考証において、一覧を参照することで、調査する年度を短い期間に絞り込むことができたり、考証した上演年月と改印の示す年月がかけ離れた場合、考証のまちがいや改刻による版木の流用の可能性などを教えてくれる。

この名主双印時代の記述は、「改印一覧」をまとめられた佐藤悟氏の「名主双印試考」(「浮世絵芸術」)の考察に拠っている。名主双印時代の改印の推定は、1920年に『錦絵の改印の考証』をまとめられた石井研堂氏がわからないとし、その後、1983~85年にかけて山田道夫氏が「研堂の名著『錦絵の改印の考証』に加筆を」(「季刊浮世絵」)で、役者絵に見られる改印から年月を推定しようとしたが、確かなものにまでは至らなかった。これに対し、佐藤氏は1998年に「名主双印試考」で、合巻に見られる改印から推定を行うことで、年月の特定に成功した。この功績は大きく、今なお、嘉永期の年代考証の拠り所となっている。

本発表は、嘉永四年三月、河原崎座、「浜真砂長久御摂」と考証した作品に、「浜、馬込」の改印があったことに端を発する。「改印一覧」では「浜、馬込」は嘉永三年十二月、嘉永四年六月であるが、この上演は三月三日から四月十六日である。正月に河原崎座では「伊達競高評鞘当」が上演されたが、その上演前の十二月に、次の次の興行である三月の役者絵の出版が行われるとは考えがたく、また揃物でもないのに千秋楽を迎えた二ヶ月後の六月に出版されるとも考えにくい。そこで、演博・ARC等のデータベースを使い、役者絵から「浜、馬込」の年月の推定をめぐる考察を行い、嘉永四年の「改印一覧」に検討を加える。

三代歌川広重の肉筆浮世絵画帖について

一 初代・二代広重の作品との比較を中心に ―

Ukiyo-e Painting Albums by Utagawa Hiroshige III: Comparison with Works of Hiroshige I and Hiroshige II

ルーヴェン大学 **テリン・フレイヤ** University of Leuven **Freya TERRYN**

三代歌川広重(1842-1894)の浮世絵師としての評価は、開化絵、つまり文明開化という政治的なスローガンを象徴する錦絵に基づいている。このような錦絵は、鮮やかな色調を用いたことで知られ、明治時代の社会史の貴重な歴史的・文化的資料とされている。このゆえに、三代広重は、資料的・文化的文書的機能評が価され、「文明開化のカメラマン」とも称されている。

本発表の目的は、三代広重の研究領域を開化絵の枠を超え、明治政府から依頼された彼の肉筆浮世絵を検証することで、その芸術的実践の特徴を明らかにすることである。1869年と1871年に、明治政府は三代広重をはじめ浮世絵師に浮世絵画帖を依頼した。この浮世絵画帖は、絹絵を厚紙に貼り付け、1ページの中央に金を散らして、アコーディオン形式の豪華なアルバムにしたものである。この画帖は、ヨーロッパや東アジアの王族への外交上の贈り物であり、特に、イギリスのアルフレッド・アーネスト・アルベルト皇太子(1844-1900)(ゴータのフリーデンシュタイン宮殿蔵)、オーストリア・ハンガリー帝国エリーザベト・アマーリエ・オイゲーニエ皇后(1837-1898)(ウィーンの美術史美術館蔵)、清国の慈禧太后(1835-1908)と慈安太后(1837-1881)(北京の故宮博物院蔵)のための画帖であった。三代広重は、この浮世絵画帖のために73枚の絵画を描いた。本発表では、三代広重の絵画の詳細な分析を通して、三代広重が初代広重及び二代広重の作例をどの程度参照しながら、その特徴を継承して、この肉筆浮世絵を描いたのかということを検討し、彼の芸術的実践を明らかにする。

北斎は戯作者兼絵師?

― 文芸をめぐる社会的文脈の中で確立された視覚言語の、絵手本教育への応用

Hokusai as an Author-illustrator? Application of the Visual Language Established Among Hokusai's Poetic Social Context as a Didactic Tool

チューリッヒ大学 **ステファニー・サンチ** University of Zurich **Stephanie SANTSCHI**

報告者は、葛飾北斎(宝暦10年~嘉永2年/1760~1849)を、特に文化7年(1810)頃からの最も充実した十年間の始まりにおいて、絵師としてだけでなく戯作者としても理解することを提唱すべく研究している。本発表では、『己痴羣夢多字画尽』(文化7年刊)と『略画早押南』(文化9年・11年/1812・1814刊)の2作品について、事例をもとに論じる。これらの絵手本では、情報は図によってだけでなく、テキストや、図とテキストのハイブリッド形式によっても提示されている。ハイブリッド方式の特徴は、視覚的語彙とテキスト的語彙に共通する性格を有する点である。特に、北斎と同時代に活躍し、形と意味が類似した視覚的・テキスト的モデルを作った山東京伝の作品と比較し、その影響を確認する。

これらの絵手本の視覚的・テキスト的構造を綿密に分析することによって得られたデータに基づいて、北斎の初期の絵手本の論理が、当時の彼の社会的環境に存在した発想から直接的に生じている様相を再構築する。北斎を取り巻く環境には、絵師も、また詩歌や書の制作に携わる人々も含まれていた。特に、本研究で示される実例は、同じような社会的文脈に属していた京伝と北斎の間で知識の交換が行われていたことを示している。

方法論的には、この研究は対象となる作品の美術史的分析および視覚的・テキスト的分析を、19世紀初期の徳川時代の都市で展開した文化的ネットワークの社会的考察に擦り合わせて、見直したものである。美術に対する同時代社会の態度と、そのような姿勢が絵手本の内容や表現に及ぼした影響を扱うにあたって、本研究は2つの理解を提案する。第一に、北斎の作品が、より大きな歴史的・社会的プロセスの中に組み込まれていることと同時に、木版画という媒体がもたらす物理的な制約もまた、その性格づけに寄与しているということ。第二に、『己痴羣夢多字画尽』と『略画早押南』の絵画的・テキスト的論理を理解することは、北斎の多彩な作品群全体の理解に貢献するということである。

"上方すりもの"について考える

Thoughts on Viewing Kamigata Surimono

チューリッヒ大学

ハンス・ビャーネ・トムセン

University of Zurich

Hans Bjarne THOMSEN

ジュネーブ美術館では昨年、赤間亮教授のコレクション調査に基づき、上方摺物に関する展覧会を開催した。このプロジェクトは国立歴史民俗博物館の支援を受けており、現在出版準備中。本講演では、この摺物を集中的な共同作業が行われたオブジェとして、どのように理解されるかについて、いくつかの考え方を概説する。また、これらのオブジェがサロン的な存在としてどのように機能しているのか、その内容はどのように構成されているのか、ジェンダーに関する問題をどのように反映しているのかなど、様々な角度から見ていきたいと思う。



〈ハンス・ビャーネ・トムセン 略歴〉

Hans Bjarne THOMSEN ハンス・ビャーネ・トムセンは京都で生まれ、日本と母国のデンマークで育つ。プリンストン大学で日本美術史および考古学の博士号を取得。シカゴ大学で日本美術史を教えた後、チューリッヒ大学で東アジア美術史の研究室を受け持つ。長年にわたり、ヨーロッパの美術館で数多くの調査プロジェクトを立ち上げ、展覧会や出版物に結実させてきた。最近では10月からドイツのフライブルグで日本の古写真展と来年3月からスイスのバーゼル美術館での浮世絵展の共同キュレーションを担当している。東アジア文化の近世美術史について幅広く出版している。2019年、スイスと日本の文化的絆を深める活動が評価され、日本政府から旭日小綬章を受章。

浮世絵と社会情勢

Social Conditions and Their Impact on Ukiyo-e

国際委員会副委員長・太田記念美術館

渡邉 晃(司会)

Vice Chair of the International Committee, Ota Memorial Museum of Art Akira WATANABE (Coordinator)

浮世絵は、「浮世」という言葉が時に「当世風」という意味を持つように、当時の社会情勢 と深い関わりを持つ庶民文化である。版元や浮世絵師たちは、社会の変化や時代の流行を敏感 にとらえ、時に幕府の様子をうかがいながら、工夫をこらして多くの作品を制作し続けた。中 でも緊迫した社会情勢の元で幾度も行われた、享保の改革、寛政の改革、天保の改革などの出 版統制は、浮世絵と当時の社会情勢との関わりを象徴するような事象と言えるだろう。

第28回国際浮世絵学会秋季大会シンポジウムでは、浮世絵と社会情勢との関わりについて、 さまざまな視点から発表とパネルディスカッションを行う。まず佐藤悟氏には、羽川珍重作の 「西田屋こゝのゑ」の板元名が断裁された問題や、喜多川歌麿「当時三美人」のタイトルや、「富 本豊ひな・難波やきた・髙しまひさ」の人名が削除された問題など、享保の改革や寛政の改革 の際に起きた出版規制の諸相についてご発表いただく。

また藤澤茜氏には、天保の改革で絶版処分となった『偐紫田舎源氏』を題材にした源氏絵の 表現方法や刊行の状況について、また、規制する側である町名主の検閲、規制される側である 版元の活動など、出版統制下での浮世絵界の動向に焦点を当ててお話いただく。桑山童奈氏に は、幕末の横浜開港にともなって盛んに出版された横浜絵について、開港直後ではなく、数ケ 月経過してから出版がはじまったことや、検閲を受けなかった瓦版と、検閲を受けた浮世絵と の表現や情報の違いなど、その出版に当時の社会情勢がどのような影響を及ぼしたのかについ てご発表いただく。

これらの登壇者による発表を踏まえた上で、さまざまな時代の混乱した社会情勢の中で、版 元や浮世絵師たちがどのように行動したのか、また各時代の出版統制や検閲、あるいは版元側 の自主的な憚りの様子はどのようなものだったのか、議論を深め、浮世絵と社会情勢との関わ りについて新たな視点を見出せれば幸いである。

浮世絵にみる出版規制の諸相

Aspects of the Government Regulations on Ukiyo-e Publishing

実践女子大学 佐藤 悟

Jissen Women's University Satoru SATŌ

浮世絵や草双紙は近世の木版技術を背景に大量出版され、価格が低かったこともあり、大衆 文化の一翼を担ってきた。その大衆性故に浮世絵は社会情勢を敏感に採り入れたが、逆に規制 を受けるという側面もあった。寛政改革や天保改革による取締りの影響については、様々な研 究者による多くの研究の積み重ねが既にある。

今回のシンポジウムでは、佐藤により既発表であるが、浮世絵との関連については議論が行われていない以下の問題について取り上げる。

- ①羽川珍重「西田屋こゝのゑ」の板元名断裁の問題
 - 出版が幕府の刑罰大系に触れて規制を受けた可能性について論じる。
- ②喜多川歌麿「当時三美人」のタイトル、及び「富本豊ひな・難波やきた・高しまひさ」の人 名が削除された問題

幕府の集娼政策との関係で論じる。

③『絵本太閤記』の絶板と延命院事件との関連

政策の恣意性について論じる。

これら3点の問題から浮世絵の持つ性格を、取締りという視点から論じてみたい。

天保の改革後の浮世絵出版

Ukiyo-e Publishing after the Tempō Reform

国際委員会委員長・神奈川大学 藤澤 ず

Chair of the International Committee, Kanagawa University Akane FUJISAWA

天保の改革(1841 ~ 43)では、歌舞伎役者、遊女の一枚絵の禁止や価格の制限など、浮世絵に対する出版規制がなされた。規制直後には百人一首など教養に関する作品の刊行が増え、国芳の戯画や風刺画が人気を集めるなど、板元や絵師が出版規制に柔軟に対応していたことがうかがえる。

本発表では、以下の点について検討したい。

①役者絵や源氏絵などの出版状況

役者絵や、天保の改革で絶版処分となった『偐紫田舎源氏』を題材にした源氏絵に注目し、 その表現方法や刊行の状況を明らかにする。

②名主による検閲とその混乱

地本問屋仲間の解散後、町名主が検閲を担当した際の記録をもとに、幕府が何を取り締まろうとしたのか、具体的に検証する。

③新規参入組も含めた板元の活動

嘉永4年(1851)の問屋仲間再興前後の板元の活動の一端を示したい。

これら3点を中心に、出版統制下での浮世絵界の動向を探り、社会の変化に応じたしたたかな出版事情について論じてみたい。

横浜開港と浮世絵

Yokohama Ukiyo-e and the Opening of the Port in Yokohama

神奈川県立歴史博物館

桑山 童奈

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

Dona KUWAYAMA

安政6年(1859)6月の横浜開港後に出版された、来日した外国人の姿や新しく造られた横浜の町など、横浜開港に端を発するできごとが描かれた錦絵は、「横浜絵」などと呼ばれてきた。下記を詳しく検討することで一連の錦絵に、横浜開港(開国)という社会の変化がいかに反映されたかあきらかになると考え、本シンポジウムでの話題としたい。

①出版の時期

改印から、開港直後ではなく数ヶ月経過してから出版が始まったことがわかる。また、題材により出版開始時期、点数のピークも異なる。この出版過程を考える。

②瓦版との違い

検閲を受けない瓦版とは、描かれた題材が共通するものもあるが、異なるものもある。つまり横浜絵は瓦版のカラー化ではない。美しい錦絵で売りたい題材(情報)とは何であったか。

③世相を反映した他の錦絵との比較

横浜開港のほか、文久3年(1863)の家茂上洛をはじめ、幕末の揺れ動く政情を浮世絵師は描いた。他の事件の錦絵と比べて、当時の社会における横浜絵の位置付けを考える。



歌川貞秀「生写異国人物」(太田記念美術館所蔵)

第28回 国際浮世絵学会 秋季大会 協賛

国際浮世絵学会 秋季大会開催に際し、次の方々から寄付と協賛を賜りました。 記して深く感謝いたしますとともに、心より御礼申し上げます。

(2023年10月11日現在 五十音順 敬称略)

浅野 秀剛 有限会社いせ辰

一心みずい版画(水井 みつ子)

株式会社 江戸文物研究所(内村 修一)

大墙 敦

大久保 純一

(有)大屋書房(纐纈 公夫・纐纈 くり)

河合 正朝

公文教育研究会

五拾画廊(土屋 雅人)

小林 忠

佐々木 昭美

地曳 誠

株式会社ステップイースト

(有)角匠アートギャラリー (角田 日出男)

井蛙庵(柳 重之)

中外産業株式会社

公益財団法人 摘水軒記念文化振興財団(寺嶋 哲生)

東京浮世絵会(御成会)

東間 勝彦

永田 一恵

中村 真

(株)原書房(原 秀昇・原 敏之)

原田 英利

(株)藤アート(伊藤 雅章)

株式会社 マツミサロン(塚原 雄太)

株式会社 繭山龍泉堂

萬徳 京子

三田アート画廊株式会社(David Caplan・Ken Caplan)

安村 敏信

山下 則子

株式会社 古美術 藪本(藪本 俊一)

株式会社渡邊木版美術画舗(渡邊 章一郎)

原書房

浮世絵版画 和本 浮世絵関係書

101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3 Tel 03 5212 7801 Fax 03 3230 1158 Mail ukiyoe@harashobo.com



橋口五葉 (HASHIGUCHI GOYO) 雪の伊吹山 大正9年 江戸絵鑑賞会作品 第一回作品 渡辺版 限100の内 Mount Ibuki in snow, limited eidtion of 100, 1920

2-3 Kanda Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051 Japan Tel +81 3 5212 7801 / Fax +81 3 3230 1158

営業時間: 11:00 - 18:00 定休日: 日・月・祝日 (Closed on Sundays, Mondays & Public Holidays)





川瀬巴水 旅みやげ第三集 田沢湖漢瑳宮 昭和2年(1927)作

-新版画の美-生誕140年 川瀬巴水木版画展

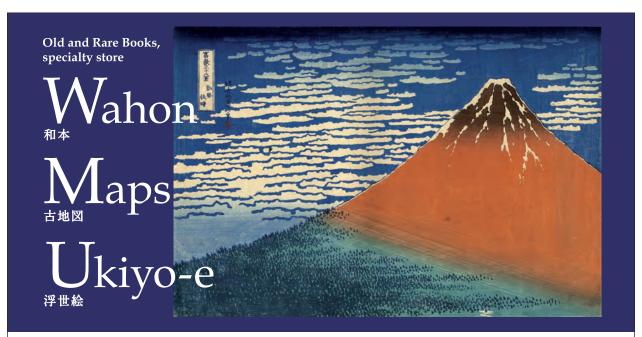
(初期摺り作品展示即売会)

会期 令和 5 年11月16日(木) ~ 22日(水)

会場 アールグロリュー ギャラリー オブ トーキョー 東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 5 階 ^{詳しくは11月10日以降} http://www.hangasw.com/ をご覧ください。

(株)渡邊木版美術画舗

S.WATANABE COLOR PRINT CO. 〒104-0061 東京都中央区銀座8-6-19 TEL 03-3571-4684 / FAX 03-3572-8887 http://www.hangasw.com/





OHYA-SHOBO CO.,LTD. Established 1882. (a) (iii www.ohya-shobo.com

101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目1番地 1-1 Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

TEL 03-3291-0062 / FAX 03-3295-2334

OPEN 月—土曜 | 10:00~18:00 CLOSE 目曜・祝日(営業の場合もあります。ご連絡下さい)





株式会社マツミサロン

MATSUMI SALON CO., LTD

〒160-0022

東京都新宿区新宿1-19-10

サンモールクレスト606

TEL: 03-3357-6174 FAX: 03-3355-0504

E-mail ukiyoe@matsumisalon.co.jp

606 Sunmall Crest 1-19-10

Shinjuku Shinjuku-ku Tokyo 160-0022 Japan TEL: 81-3-3357-6174

FAX: 81-3-3355-0504

第28回 国際浮世絵学会 秋季大会 実行委員会

浅野 秀剛	藤澤 茜	定村 来人	Buckland, Rosina
大久保 純一	渡邉 晃	染谷 美穂	Davis, Julie Nelson
纐纈 くり	石上 阿希	内藤 正人	Kok, Daan
田辺 昌子	岡崎 礼奈	長井 裕子	Marks, Andreas
渡邊 章一郎	木下 京子	西田 亜未	
角田 日出男	小林 ふみ子	山口 桂	

第28回 国際浮世絵学会 秋季大会

International Ukiyo-e Society 28th Fall Conference

2023年11月25日

編集·発行 国際浮世絵学会

〒104-0031 東京都中央区京橋2-12-2 京橋三貴ビル4F

Tel: 03-6271-0824 Fax: 03-6271-0834

International Ukiyo-e Society

2-12-2-4F Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, JAPAN

Tel: +81-3-6271-0824 Fax: +81-3-6271-0834

http://www.ukiyo-e.gr.jp/

印刷·製本 上毛印刷株式会社



International Ukiyo-e Society Fall Conference

International Ukiyo-e Society Saturday, November 25, 2023 at Kanagawa University, HyFlex



